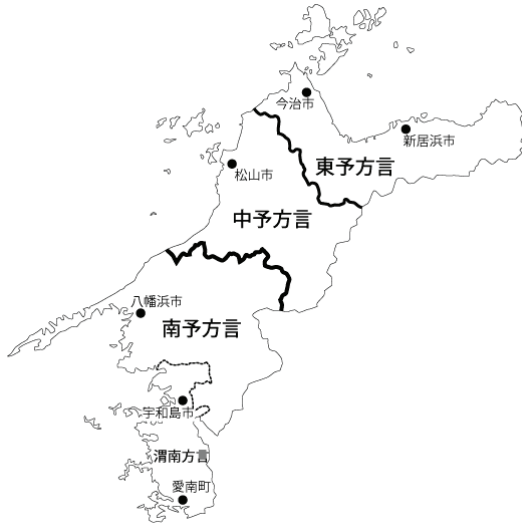


愛媛県松山市方言



愛媛県方言区画図

【愛媛県の方言区画】愛媛県は3つの地域に分割され、東から東予、中予、南予と呼ばれている。方言区画も概ねそれに対応しており、東予と中予が属する東中予方言と南予方言の2つに大分される。東中予方言は東予方言と中予方言に下位分類される。また南予のうち宇和島市と愛南町、高知県の足摺岬周辺の6市町村を加えた地域を渭南地域と呼び、渭南方言として個別に扱われることもある。加えて愛媛本土諸方言とは別に島嶼部だけで区画されることもある。

『愛媛県言語地図集』（愛媛大学方言ゼミナール1981）を見ると東予、中予、南予それぞれの特徴的な文法事象が確認できる。例えば命令文「行きなさい」は東予では「イカンカ」、中予では「オイキ」、南予には「イキナハイ」が分布する。依頼文「～して下さい」は東予では「シテツカ」、中予では「シテクレンカ」、南予では「シテヤンナハイ」が確認される。また、近年では聞かれなくなったが終助詞「ナモシ・ノモシ」の分布については、東予に「ノモシ」、中予に「ナモシ」が使用されており、南予では見られない。アクセントの分布は多様性があり、東予から中予にかけて京阪式が広がるが、香川県県境付近地域は讃岐式となる。南予では主に東京式を使用す

る地域が多いが、中予との境界に位置する大洲市や内子町は無アクセント地域になる。

【松山市方言について】松山市は中予地域に属した愛媛県の県庁所在地である。松山城や道後温泉などの観光資源にも恵まれており、文化と経済においても県の中心になっている。

音韻の面では「京阪方言の最も近い直系」（『松山市誌』pp.486-493「方言」とされる。アクセントについても伝統的には京阪式アクセントに一致する。ただし、秋山（2017）では1950年頃より語頭の低起高起の対立が失われはじめ、若年層では標準語化が完了していると報告している。

文法的な特徴としては動詞の否定形「ン」の使用、形容詞連用形のウ音便化（「シローナル」(白くなる)など）など、西日本方言の代表的な特徴とされる文法事象を持つ。なおコピュラ（いわゆる断定の助動詞。標準語の「だ」）については伝統的に「ジャ」を使用するが、近年では「ヤ」の使用も増えている。また理由の接続助詞や継続のアスペクト形式は中・四国域では様々な形を見せるが、松山市では理由の接続助詞は「ケン」、継続のアスペクトは「ヨル／トル」を使用する。

【調査概要】本稿の記述は松山市で生育した男性話者1名（1933年生まれ）及び女性話者1名（1962年生まれ）の回答を基に行う。調査では主な回答を男性話者に行ってもらい、その回答が適切かどうかや性差があるかなどの判断を女性話者に行ってもらった。また適宜筆者（松山市で生育、1991年生まれ）の内省も考察に含む。

用例については引用元を記していない場合は上記の調査によって得られたもの、及び筆者の作例である。それ以外に『日本のふるさとことば集成 第17巻』の愛媛県松山市の談話からも引用しており、その場合は用例の後に「ことば集成」と付す。

愛媛県松山市方言の活用表

《動詞》

		多段一般型 書く	多段特殊型 死ぬ	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	シヌ △シヌル	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	シンダ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ (一) カキ (一) オカキ	シネ △シニ (一) オシニ	ミー オミ (一)	コイ キー	セー シー オシ (一)
	禁止	カクナ カカレン	シヌナ シナレン	ミルナ ミンナ ミラレン	クルナ クンナ コラレン	スルナ スンナ セラレン
	意志	カコ (一)	シノ (一)	ミヨ (一)	コヨ (一)	シヨ (一)
	推量	カクジャロ (一)	シヌジャロ (一)	ミルジャロ (一)	クルジャロ (一)	スルジャロ (一)
	否定意志・ 否定推量	カクマイ カカマイ	シヌマイ △シナマイ	ミルマイ ミマイ	クルマイ コマイ	スルマイ セマイ
接 続 類	連体非過去	カク	シヌル シヌ	ミル	クル	スル
	連体過去	カイタ	シンダ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カイテ	シンデ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カイタラ	シンダラ	ミタラ	キタラ	シタラ
派 生 類	否定	カカン	シナン	ミン	コン	セン
	丁寧	カキマス	シニマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカス カカセル	シナス シナセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル
	受身	カカレル	シナレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能肯定	カケル	シネル	ミレル ミラレル	コレル コラレル	《デキル》
	可能否定	カケン ヨー カカン イエー カカン	シネン ヨー シナン イエー シナン	ミレン ヨー ミン イエー ミン	コレン ヨー コン イエー コン	《デキン》 ヨー セン イエー セン
	尊敬	カカレル	《ノーナル》 シナレル	ミラレル	コラレル	サレル
	継続	カキヨル カイトル	シニヨル シンドル	ミヨル ミトル	キヨル キトル	シヨル シトル
	希望	カキタイ	シニタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
	のだ	カクン (ジャ)	シヌン (ジャ) シヌルン (ジャ)	ミルン (ジャ)	クルン (ジャ)	スルン (ジャ)

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。
g	嗅ぐ kag・u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das・u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	立つ tac・u	タッ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom・u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir・u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)・u	コー-タ	wをø(子音なし)に。wの前の母音がaの場合はoに変え、
	拾う hiro(w)・u	ヒーロー-タ	R(長音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終 止 類	断定非過去	アカイ	シズカ(ジャ) シズカナ	ガクセー(ジャ)
	断定過去	アカカッタ	シズカジャッタ シズカナカッタ	ガクセージャッタ
	推量	アカイジャロ(一) アカカロ(一)	シズカジャロ(一) シズカナジャロ(一) シズカナカロ(一)	ガクセージャロ(一)
接 続 類	連体非過去	アカイ	シズカナ	《ガクセーノ》
	連体過去	アカカッタ	シズカジャッタ シズカナカッタ	ガクセージャッタ
	中止	アコーテ	シズカデ	ガクセーデ
	仮定	アカケリヤ(一) アカカッタラ	シズカジャッタラ	ガクセージャッタラ
派 生 類	否定	アコ(一)ナイ	シズカジャナイ	ガクセージャナイ
	なる	アコ(一)ナル アカナル	シズカニナル	ガクセーニナル
	丁寧	アカイデス	シズカデス	ガクセーデス
	のだ	アカイン(ジャ)	シズカナン(ジャ)	ガクセーナン(ジャ)

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型にはa類のうち「書く」・「居る」類、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オの5形、および、音便形がある。「カク」(書く)の場合、カカン(kak・a-N)、カキヨル(kak・i-joru)、カク(kak・u)、

カケ(kak・e)、カコ(kak・o)、カイタ(kai-ta)など。

また、語幹末子音には、k(カ行)、g(ガ行)、s(サ行)、t(タ行)、b(バ行)、m(マ行)、r(ラ行)、w(ワ行)がある。語例は表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

多段型の特殊なものとして、語末がn(ナ行)の「シヌ・シヌル」(死ぬ)と「イヌ・イヌル」(帰る)があげられる。「書く」などを多段一般型とするのに対し、この語を多段特殊型とする。「死ぬ」を例にすると、否定形シナン(sin・a-N)、希望形シニタイ(sin・

i-tai) など、多くは多段一般型と同じ活用になるが、断定非過去形・連体非過去形・のだ形シヌル (sin-u-ru) で、ウ段形シヌ (sin-u) にラ行で始まる接辞が付く形が現れる。古典語の「ナ行変格活用」の特徴を持つと言える。

一段型には、ミル (mi-ru)、オキル (oki-ru) など、基幹イ段の動詞と、アケル (ake-ru) など基幹がエ段の動詞がある。

不規則な活用をする動詞として、「クル」(来る)、スル(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ (k-i-ta)、ク-ル (k-u-ru)、コ-ン (k-o-N) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。「スル」は、サ-レル (s-a-reru)、シ-タ (s-i-ta)、ス-ル (s-u-ru)、セ- (s-e-R) のように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の4段にわたる。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段一般型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。一段型動詞は「ミル」など「基幹(=語幹)+ル」、「来る」(カ変)「する」(サ変)は「ウ段動形+ル」で「クル」「スル」となる。多段特殊型は「シヌ・シヌル」両形があるが、断定非過去形では「シヌ」、連体非過去形では「シヌル」になりやすい。

- ・キンギョウ エサオ ヤラント スグ {シヌ / ?シヌル}。

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形の「キ」「シ」に「タ」を後接する。ただし多段型動詞において基幹末子音がgの場合、またはN(撥音)に変化する場合は「ダ」が後接する。基幹末子音がwの場合は「コータ」「ヒロータ」などのいわゆるウ音便形を使用する。

- ・ハナノ ニオイオ カイダ。(花のにおいを嗅いだ。)
- ・テガミオ ダシタ。(手紙を出した。)
- ・リンゴオ ユーダ。(りんごを買った。)
- ・ゴミオ ヒロータ。(ごみを拾った。)

〈命令形〉

多段型動詞では「カケ」「カケー」などエ段形やその長音形、または「カキ(一)」などイ段(長音)形となる。ただし、多段特殊型では「シニ(一)」は実

現しにくい。一段型動詞では「ミー」のように基幹長音形、「する」はエ段長音形の「セー」、またはイ段長音形の「シー」、「来る」は不規則な「コイ」、またはイ段長音形「キー」となる。多段型・「来る」「する」のイ段長音形は学校文法の「連用形」に由来する形だと考えられる。これらに付く終助詞には「ヤ」「ヨ」がある。

表には含めていないが、後述の否定形に「カ」が後接する形もある。これには終助詞「ナ」「ネ」が伴うことが多く、主に女性が使用する形であるという内省を得ている。

また「オカキ」「オシニ」「オミー」「オシ(一)」のように基幹(多段型と「する」ではイ段形)の語頭に「オ」を接続することで命令を表現することもある。ただし「来る」はこの形を欠く。表にはないが「カキナサイ」のように標準語と同様の尊敬命令形も用いられる。

- ・シバラク ココニ {オレヨ / オリナサイ}。
(しばらく ここに {いろ/いなさい。})
- ・ハヨー テガミ オカキヨ。(早く手紙を書きなさい。)
- ・ハヨー シゴト {セーヨ / センカナ}。(早く仕事をしろ。)

〈禁止形〉

断定非過去形に「ナ」が後接し、終助詞として「ヤ」「ヨ」が付くこともある。断定非過去形の末尾がルの場合、「ミンナ」などのようにルガンになることがある。また、女性が使用しやすい形として多段型動詞ではア段形に「レン」、一段型動詞では基幹、「来る」は「コ」、「する」は「セ」に「ラレン」が付く場合もある。この「レン」「ラレン」は可能を表す「レル」「ラレル」の否定形だが、松山市方言においては禁止の意味で使用される。終助詞として「ヨ」「ゼ」「ゾ」などが付く。

- ・アシタワ ココニ クルナヨ。(明日はここに来るな。)
- ・バカナ コトオ セラレン。(バカなことをするな。)
- ・ウゴカレンゼ ユータ モンジャケー (動いてはいけないぞ [と] 言ったものだから) [ことば集成]

〈意志形〉

多段型動詞は「カコー」「シノー」などのオ段長音形となるが、「カコ」「オロ」など長音化しない場合もある。一段型動詞は基幹に、「来る」はオ段形、「する」はイ段形に「ヨー」、または長音化せず「ヨ」が後接する。終助詞「ワイ」が付くこともしばしばである。

- ・イマカラ シゴトヲ シヨー。(今から仕事をしよう。)
- ・シバラク ココニ オロワイ。(しばらくここにしよう。)

〈推量形〉

推量形は「カクジャロ」または長音化した「カクジャロー」など、「断定非過去形+ジャロ(一)」となるが、女性や若年層では「ヤロ(一)」が多い。

- ・タローガ テガミオ カクジャロー。(太郎が手紙を書くだろう。)
- ・コノキンギョワ モースグ シヌヤロ。(この金魚はもうすぐ死ぬだろう。)

〈否定意志・否定推量形〉

否定意志・否定推量は「マイ」で表される。「カクマイ」「ミルマイ」「クルマイ」「スルマイ」のように断定非過去形に後接するほか、多段型動詞は基幹ア段形に後接した「カカマイ」、一段型動詞は基幹に後接した「ミマイ」、来る」は基幹オ段形に後接した「コマイ」、する」は基幹エ段形に後接した「セマイ」がある。ただし、多段特殊型「シナマイ」は実現しにくい。

- ・モー ココニワ {クルマイ/コマイ}。(もうここには来ないだろう。)

否定推量形は否定形に「ジャロ(一)」を後接した形もある。それについては〈否定形〉を参照。

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形の「カク」「シヌル」「シヌ」「ミル」「クル」「スル」などとなる。

- ・スグニ シヌル イキモノオ カウナ。(すぐに死ぬ生き物を飼うな。)

〈連体過去形〉

連体過去形も断定過去形と同形であり、「タ」または「ダ」を付けた形となる。

- ・タローガ オッタ トキ (太郎がいた時)

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、

「来る」「する」はイ段形に「テ」を後接する。ただし、断定過去形と同様に基幹末子音がgの場合、またはN(撥音)に変化する場合は「デ」が後接する。

- ・バタバタ アオイデ ツユー ノケルンヨ。
(バタバタあおいで露[を]除くのよ。)[ことば集成]

〈仮定形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形に「タラ」を後接する。

- ・イマカラ テガミオ カイトラ マニアウゼ。
(今から手紙を書けば、間に合う。)
- ・ツイテイキヨツタラ ヨーガ アケタンデ(ついで行っていたら夜が明けたので)[ことば集成]

〈否定形〉

多段型動詞はア段形、一段型動詞は語幹、「来る」はオ段形「コ」、「する」はエ段形「セ」に「ン」が後接する。否定過去形は、「ン+カッタ」または「ナンダ」で表される。また否定仮定形では否定過去形「カッタ」「ナンダ」の「タ」「ダ」を「タラ」「ダラ」に代えることで表す。否定推量形は「ン」に「ジャロ(一)」を後接する、あるいは前述のように「ン」ではなく「マイ」を後接することで表される。中止形は「ン」に「デ」を後接するが、「イデ」が使用されることもある。「書く」を代表以下に示す。

断定非過去・連体非過去形 カカン

断定過去・連体過去形 カカンカッタ、
カカナンダ

意志形 カカン

推量形 カカンジャロ(一)、カクマイ、
カカマイ

中止形 カカンデ、カカイデ

仮定形 カカンカッタラ、カカナンダラ

- ・ソナナ モノワ イランケン。(そんなものは要らないから。)[ことば集成]
- ・キョーワ シゴトオ セン。(今日は仕事をしない。)
- ・ナガモチワ セナンダノ。(長持ちはしなかったね。)[ことば集成]
- ・デキマイカ インニャ ソンナコト ナイデ。(できないだろうか。いいやそんなこと[は]ないよ。)[ことば集成]

- ・ソガイナ コトワ ヤライデモ エー。(そんなことはやらなくてもいい。)
- ・モッテイットラナンダラ サイガ ナイケン。(持っていったいなかったらおかずがないのだから。)[ことば集成]

〈丁寧形〉

多段型動詞と「来る」「する」はイ段、一段型動詞は基幹に「マス」が後接する。

〈使役形〉

多段型動詞のア段形、「する」の「サ」に「ス」または「セル」が、一段型動詞の基幹、「来る」の「コ」に「サス」または「サセル」が後接する。「ス」「サス」は多段型、「セル」「サセル」は一段型の活用をする。

- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サス (太郎に一人で仕事をさせる。)
- ・ジブンデ ナマエオ {カカス/カカセル}。(自分で名前を書かせる。)

〈受身形〉

多段型動詞のア段形、「する」の「サ」に「レル」が、一段型動詞の基幹、「来る」の「コ」に「ラレル」が後接する。「レル」「ラレル」は一段型の活用をする。

- ・ワカイ ウチニ オヤニ シナレル。(若いうちに親に死なれる。)
- ・ハナコニ コラレル。(花子に來られる。)

〈可能(肯定・否定)形〉

可能形は多段型動詞においては「カケル」「シネル」のようにエ段に「ル」を付ける。一段型動詞においては「ミレル」のように基幹に「レル」を付ける形と、「ミラレル」のようにア段に「レル」を付ける形がある。「来る」ではア段に「レル」を付す「コレル」と「ラレル」を付す「コラレル」がある。「レル」「ラレル」は一段型の活用をする。また「する」にはこれらに当たる形はなく、代替動詞「デキル」を用いる。

否定形では、上の形の否定形「カケン」「ミレン」などのほか、「ヨー カカン」「イエー カカン」など、「ヨー・イエー+否定形」で表される形がある。表には含めていないが「ヨー カケン」「イエー カケン」など、「ヨー・イエー+可能否定形」で表されることもある。「ヨー・イエー」を用いる形は基本的

には能力可能の否定形として用いられる。

- ・コノコワ マダ コマイケンド ムズカシー カンジガ カケル。(この子はまだ小さいけれども、難しい漢字が書ける。)
- ・クライケン カケンゾナ。(暗いから書けないよ。)
- ・オソロシーケン ヨー {ミン/ミレン} ワイ。(恐ろしくて見る事が出来ないよ。)

〈尊敬形〉

多段型動詞のア段形、「する」の「サ」に「レル」が、一段型動詞の基幹、「来る」の「コ」に「ラレル」が後接する。「レル」「ラレル」は一段型の活用をする。

- ・センセーガ テガミオ カカレル。(先生が手紙を書かれる。)
- ・センセーガ モースグ ココニ コラレル。(先生がもうすぐここに來られる。)

〈継続形〉

継続形において、西日本方言で広く見られる「ヨル/トル」の対立は一般に前者が進行態、後者が結果態を表す。しかしながら現在の松山市方言では、進行態でもトルが用いられることが少なくない。ヨル形は多段型動詞と「来る」「する」はイ段形に、一段型動詞は基幹に「ヨル」を後接、トル形は多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段形に「トル」を後接する。

- ・タローワ イマ テガミオ カキヨル。(太郎は今、手紙を書いている。)
- ・ダレガ オラビヨルノジャローゾト オモーテ (誰が叫んでいるのだろうかと思って)[ことば集成]
- ・ハナコガ イマ マドオ アケトル。(花子が今、窓を開けている。)
- ・キンギョガ シンドル。(金魚が死んでいる。)
- ・アノ オモヤニ ツクットル ブンデ (あの母屋に作っている分 [=田んぼ] で)[ことば集成]

〈希望形〉

多段型動詞はイ段形、一段型動詞は基幹、「来る」「する」はイ段「キ」「シ」に「タイ」が後接する。

- ・イツマデモ ココニ オリタイ。(いつまでもここにいたい。)

〈このだ形〉

連体非過去形に「準体助詞ン＋助動詞ジャ」を後接する。「ゾ」「デ」「ヨ」など「ジャ」を介さず直接「ン」に付く終助詞もある。

- ・キンギョワ エサヲヤラント スグシヌルンゾ。(金魚は餌をやらないと、すぐ死ぬんだ。)
- ・クミニ ヒトツニ マトメタンヨ。(組の一つにまとめたのよ。)[ことば集成]
- ・アルンジャローケド モー ナイワイ(あるのだろうけれどもうないよ)[ことば集成]

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。中止形・否定形・なる形において、語幹末母音によっては交替語幹の長音形や交替語幹そのまま、あるいは語幹そのままの形が用いられる。なる形で例示する。

語幹末母音	交替後	語例
a	o, a	アカイ(赤い) アコ(一)ナル、 アカ(一)ナル
i	ju, i	ウレシー(嬉しい) ウレシューナル、 ウレシ(一)ナル
e	o	エー(良い) ヨーナル
u	u	ワルイ(悪い) ワル(一)ナル
o	o	オモイ(重い) オモ(一)ナル

語幹末母音が a の場合、「アカイ」「カタイ」「タカイ」などは交替しやすいが、「カライ」「アマイ」「コワイ」など語幹末が ra, ma, wa のものは交替しにくい。共通語には語幹末母音が e の形容詞はないが、この方言には上の表にも示したように、少なくとも「エー(良い)」が認められる。交替後については語幹末母音が a, e の場合はオ段、i の場合はウ段拗音で実現し、u, o は交替しない。a, i の場合も交替が起こらず元の語幹のまま使われる場合もある。ただし、「ナイ(無い)」「エー(良い)」については必ず交替する。また長音形については、否定形、なる形は長音化しない場合もあるが、中止形は長音化でのみ現れる。ただし、「ナイ」「エー」のように語幹1拍の場合、および、「ウレシューナル」のように語幹末 i の母音が ju に交替する場合は、否定形、なる形でも

長音形でのみ実現する。

〈断定非過去形〉

断定非過去形は語幹に「イ」を後接する。終助詞「ネ」などが付く場合もある。

- ・コノ トマトワ アカイ。(このトマトは赤い。)

〈断定過去形〉

断定過去形は語幹に動詞的な接辞「カッタ」を後接する。

- ・キノー カッタ トマトワ アカカッタ。(昨日買ったトマトは赤かった。)

〈推量形〉

断定非過去形に「ジャロー」を後接する場合と、語幹に動詞的な接辞「カロー」を後接する場合がある。

- ・コノ トマトワ ナカモ {アカイジャロー / アカカロー}。(このトマトは中も赤いだろう。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、語幹に「イ」を後接する。

- ・アカイ トマトオ カウ。(赤いトマトを買う。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、語幹に動詞的な接辞「カッタ」を後接する。

- ・キノーマデ アカカッタ ミ。(昨日まで赤かった実。)

〈中止形〉

中止形では語幹または交替語幹の長音形に「テ」を後接させる。交替語幹がある形容詞では「アカーテ」のように交替が起こらずそのまま元の語幹が使用される場合もある。

- ・コノ カミワ {アコーテ / アカーテ} アノカミワ シロイ。(この紙は赤くて、あの紙は白い。)

〈仮定形〉

語幹に「ケリヤ(一)」または「カッタラ」を後接する。

- ・モシ モー ミガ {アカケリヤ / アカカッタラ} トロー。(もしもう実が赤ければ、採ろう。)

〈否定形〉

「アコ(一)ナイ」などのように、語幹または交替語幹、あるいはその長音形に「ナイ」が後接する。

中止形と同様、「アカ(一)ナイ」のように交替が起こらない場合もある。

- ・マダ ミガ {アカ(一)ナイ/アコ(一)ナイ}。(まだ実が赤くない。)

〈なる形〉

語幹または交替語幹、あるいはその長音形に「ナル」を後接するが、中止形、否定形と同様「アカ(一)ナル」のように交替が起こらない場合もある。

- ・ネツガ デテ カオガ {アコ(一)ナル/アカ(一)ナル}。(熱が出て顔が赤くなる。)
- ・オコツカイオ モローテ {ウレシユール/ウレシ(一)ナル}。(お小遣いを貰って嬉しくなる。)
- ・シツガ ヨール。 (質が良くなる。)

〈丁寧形〉

断定非過去形に「デス」が後接する。

- ・コノ トマトワ アカイデス。(このトマトは赤いです。)

〈のだ形〉

連体非過去形に「準体助詞ン+助動詞ジャ」を後接する。「デ」「ヨ」など「ジャ」を介さず直接「ン」に付く終助詞もある。

- ・コノ トマトワ ナカマデ アカインジャ。(このトマトは中まで赤いんだ。)
- ・ヤナギジャー ナインヨ。(柳ではないのよ。)
[ことば集成]

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語には「シズカジャッタ」のような名詞述語と同じ形と、「シズカナカッタ」のような名詞述語にはない形がある。

〈断定非過去形〉

形容名詞述語では「シズカナ」のように「ナ」を付す形と「シズカジャ」のように「ジャ」を付す形がある。名詞述語には「ガクセージャ」のように「ジャ」を後接する。また「ヨ」「ヅ」「ネ」など「ジャ」を介さずに付く終助詞もある。

- ・コノ ヘヤワ {シズカジャーノ/シズカナノ}。(この部屋は静かだなあ。)
- ・タローワ イツモ ゲンキジャ。(太郎はいつも元気だ。)
- ・カレワ マダ ガクセーヨ。(彼はまだ学生だ

よ。)

〈断定過去形〉

形容名詞述語では「シズカナ」のように「ナ」を付けた形に「カッタ」を後接する場合と、「ジャッタ」「ヤッタ」を後接する形がある。ただし前者は女性に多い形という内省を得ている。名詞述語は「ジャッタ」「ヤッタ」を後接する。

- ・アノ ヘヤワ {シズカジャッタ/シズカナカッタ}。(あの部屋は静かだった。)
- ・キョネンマデ タローワ ガクセージャッタ。(去年まで太郎は学生だった。)

〈推量形〉

形容名詞述語では「ジャロー」「ヤロー」を後接する、あるいは「シズカナ」のような「ナ」を付けた形に「ジャロー」「ヤロー」、さらに「カロー」を後接する形がある。名詞述語は「ジャロー」「ヤロー」を後接する。

- ・ムコーワ モット {シズカジャロー/シズカナジャロー/シズカナヤロー} (向こうはもっと静かだろう(ね。))
- ・アッカナ ミカンバコジャロー。(〔底の〕空いているみかん箱だろう。)[ことば集成]

〈連体非過去形〉

形容名詞述語では「ナ」を後接する。名詞では助詞「ノ」を使用する。

- ・イツモ ゲンキナ ヒト。(いつも元気な人。)
- ・イマモ ガクセーノ トモダチ。(今も学生である友達。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で、形容名詞述語では「ナ」を付けた形に「カッタ」を後接する場合と、「ジャッタ」「ヤッタ」を後接する形があり、前者は女性に多い形という内省を得ている。名詞述語は「ジャッタ」「ヤッタ」を後接する。

- ・サッキマデ {シズカジャッタ/シズカナカッタ} ヘヤガ ウルサクナッタ。(さっきまで静かだった部屋が、うるさくなった。)
- ・キョネンマデ ガクセージャッタ トモダチ。(去年まで学生だった友達。)

〈中止形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「デ」を後接する。

- ・タローワ ゲンキデ ハナコワ オトナシー。

(太郎は元気で、花子はおとなしい。)

〈仮定形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ジャッターラ」を後接する。

- ・モシ キノーヨリ ゲンキジャッターラ モークスリワ イランジャロー。(もし昨日より元気なら、もう薬はいらないだろう。)

〈否定形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ジャ+ナイ」または「ヤ+ナイ」を後接する。後者は女性に多い形という内省を得ている。

- ・コノヘヤワ アマリ {シズカジャナイ / シズカヤナイ}。(この部屋はあまり静かじゃない。)

〈なる形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ニ+ナル」を後接する。

- ・カゼガ ナオotte ゲンキニナル。(風邪が治って元気になる。)

〈丁寧形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「デス」を後接する。

- ・タローワ ガクセーデス。(太郎は学生です。)

〈のだ形〉

形容名詞述語、名詞述語ともに「ナ」と「ン+ジャ」を後接する。「ヨ」は「ジャ」を介さず直接「ン」に付く終助詞だが、こちらは女性に多い形という内省を得ている。

- ・ケッコー {シズカナンダ / シズカナンジャ / シズカナンヨ}。(結構静かなんだ。)
- ・マダ ガクセーナンジャ。(まだ学生なんだ。)

用例出典

ことば集成：国立国語研究所（編）（2003）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第17巻 愛媛・高知』国書刊行会

参考文献

秋山英治（2017）『愛媛県東中予方言のアクセントと共通語のアクセント—日本語史再建のために—』おうふう
清水誠治（2010）「愛媛にみるアクセント分布の多様

性』『日本語研究の12章』明治書院
松山市誌編集委員会（編）（1962）『松山市誌』松山市
愛媛大学方言ゼミナール（編）（1981）『愛媛県言語地図集』愛媛大学方言ゼミナール
(久保博雅)